

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い、地域密着型サービスを意識した「地域の中で自分らしく生き生きと」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自分達の作り上げた理念の意味を深く理解し、共有し、いつも念頭に刻み実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関とホールに理念を掲示し、来訪者や面会者へ機会あるごとに説明し理解してもらえよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近所の人とはすっかり顔馴染みとなり、畑で採れた花を届けてくれたり、セラピー犬「シロ」を撫でて寄ってくれたりと気軽に立ち寄って頂いています。地域活動では大清掃に必ず参加し、自治会主催の展示会等には利用者と一緒に出席し、行事は春は花見に始まりネブタ祭り、雪祭りなど積極的に参加し交流を深めています。特にネブタ祭りでは利用者と一緒にバケツで参加し利用者も町内の方達も毎年恒例の楽しみになっています。祭りでは幼稚園の休憩所にもなっており、トイレや軽い食事やかき氷の提供で大変喜ばれています。小さい子供達と接する利用者の笑顔も印象的です。	○	地域の認知症普及活動では地域包括支援センターの協力により、地域のデイサービスセンターで「認知症って何？」という題目で劇を披露してきました。認知症についての理解と地域ネットワークの大切さが少しは伝わったかと思います。このような取り組みは継続していきたいです。また、町内の敬老会へ利用者二名が参加しました。これも一重に馴染みの町会長や民生委員の方々の温かい交流の結果ではないでしょうか。継続して取り組んでいきたいです。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は意義を理解する為に職員一人ひとりが取り組み、評価に関しても良い点、悪い点を全職員で話し合い改善に取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では評価への取り組み状況についての報告、行事報告、利用者との日々のふれあいや関わりなどの実践、結果の報告、話し合いで出た意見はサービス向上へ活かせる様な取り組みをしている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に施設長が行なっている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部で開催された研修会へ職員を派遣し、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学習する機会を設け、内部研修で研修報告を行い、職員の理解を深めている。また、いつでも復習できるように制度についての冊子を事務所机上へ置き、利用が必要な人へは説明できる体制を整えている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会で虐待について学ぶ機会をもち、いつでも高齢者虐待防止関連法について復習できるように事務所机上へ冊子がある。常日頃から職員間で声を掛け合うなど、虐待が見過ごされないように注意し合える環境作りをして虐待防止に努めている。前回の外部評価の結果を基に、発見時の報告の流れに関する取り決めについても作成する。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時に際しては、主に窓口になっている施設長が責任をもって行なっている。契約の内容に変更がある場合は、その都度、説明をし納得を得るようにしている。退去の際は退居先への情報提供や退居後の相談などにも応じている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも不満や意見が言えるような関わりを築き、言いつらい人へは意見箱を設置しプライバシーの保護や環境作りにも努めている。苦情はニーズだと深く受止め運営に反映させている。	○  利用者から出された要望について、対応できる事と出来ない事があるので、出来ない事の場合は、本人に納得してもらえるように説明をしている。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態については毎月担当者からお手紙という形で報告している。二ヶ月に一回の新聞では行事や日々の取り組みについて分かりやすく記載し、個々に合わせた報告は面会時に報告している。金銭管理の報告は必要に応じ面会時に随時行なっている。	○  預かり金の報告については、日用品などの細かいものは予め了解を得ているので都度の報告はしないが、大きな買い物や散髪などをする場合は、家族へ了解を得てから行うようにしている。
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見、不満、苦情を遠慮なく表せる様な雰囲気作りや、関わりを築けるように努めている。毎月発送の手紙には返信欄を設け、意見箱設置の取り組みも行なっている。出された意見等は運営推進会議等で話し合わせ、日々のサービスへ反映させている。	○  利用者からの要望と同じく、できる事と出来ない事の見極めを行い、出来ない事については、納得を得るように説明をしている。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提案を出しやすい雰囲気作りに努め、随時受け付けている。また、ミーティングの際、必ず意見や提案を聴き、その場で話し合う機会を設けている。なるべく反映できるような取り組みはしているが、反映できなかった意見については正当な理由を明示し次へと繋げられるような配慮をしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望に対応できるように柔軟な勤務調整に努めている。また、この事について職員と話し合いをしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動は必要最小限に抑えている。職員のスキルアップの為に移動となっており、利用者や家族の理解を十分に得て行なっている。離職について、特に説明はしていないが、気にする利用者に対しては説明をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の力量や経験に応じて、外部の研修へ派遣するなど職員を段階に応じて育成する為の年間研修計画を立て、研修を受ける機会を確保し、働きながら資格取得できるように職員をバックアップしている。研修後は復命書を作成し、全職員が回覧する他、勉強会等を行い共有を図っている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの圏内グループホームの職員が集まって情報交換会や研修の機会を持ち、職員育成と同業者との交流・連携に役立てている。また、その為の、場の提供も積極的に協力している。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	相談しづらい事でも気兼ねなく相談できる雰囲気づくりをして、職員ばかりではなく職員の家族までも配慮できるように努めています。また、業務では職員がそれぞれの個性や趣味が活かせる様な環境を整え、ストレス軽減への取り組みをしている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ただ結果ばかりを見るのではなく、過程を評価し、また、実績へ繋がる助言や指導を行い向上心を持てる様な取り組みに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設長が窓口となり、本人や家族からじっくり話を聴く機会を持ち、受止める努力をしている。日頃から家庭的な温かみのあるホームである雰囲気づくりに努め、入所前の体験入所等では本人、家族の不安の軽減を図っている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長が窓口となり対応に努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所にあたって、環境の変化による混乱が起こらないように見学や体験入所を行うほか、利用者、家族双方の意向に沿い、徐々に馴染みながらのサービス開始となるように調整している。また、職員は入所に至った経緯や生活歴等を十分に理解した上で接し、他利用者とも安心して関わっているような架け橋的役割に努め1日も早く馴染めるように工夫しています。	
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴に配慮し、仕事や趣味で培った技術を教わったり、畑作りや家事、趣味等の活動を通じて、日常生活の思いを共有し、利用者と共に支え合う関係を構築しながら共同で生活している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との思いを共有し、本人の日常生活の中での小さな出来事や発見等でも情報交換を行い、本人を支えていく関係を築いている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活歴や入所の経緯をよく理解した上で、その家族に合った支援方法を模索し、今以上に良い関係が築けるように支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理念に基づき、入所前の生活の延長線と考え、友人、知人が気兼ねなく遊びに来られるような環境を整え、また、お墓参りや行事への参加も継続していけるように支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ひとつの小さな社会と捉え、その人の癖や性格を把握し、一人ひとりに合った利用者同士の関わりを見出し、役割の中で支え合ったり、レクリエーションで関わったり、孤立させないような支援をしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入所時に築き上げた信頼関係は契約終了後も継続していると感じる。必要とする家族からの相談の電話や手紙は大切に受止め親身に対応している。また、ホームへ立ち寄ってくれたり、利用者へ畑で採れた野菜などの差し入れもあるなど、つきあいを大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のアセスメントを十分に行い、コミュニケーションをとって、思いや意向を把握している。十分に把握できない場合は、全職員で利用者の立場になり意向の把握に努めている。必要に応じて家族から情報収集を行なっている。	○	利用者本意に希望を聞く場合でも、不可能な事はあるので、（例えば、自宅で生活していた時のように一人で好きな時に外出したいなど。）其場合は、説明をそて納得してもらうようにしている。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のアセスメントを十分に行い、また、これまでのサービス利用の経過等を介護支援専門員と連携をとり一人ひとりの把握に努めている。また、情報以外にも日々の生活の中から理解するようにしている。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントや個別の介護計画やケース記録より一人ひとりの現状を総合的に把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の意向をくみ取り、家族の意見や思いを反映させている。また、カンファレンスで目標設定するなど、職員全体で検討し、介護計画の作成に活かしており、個別具体的なものを作成している。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月に一回の見直しはもちろん、本人に変化が生じた時や通院等で対応が変わった時などはその都度介護計画の見直しをしている。見直しを行う際は、利用者や家族の意見や気付きを基に、再アセスメントを行なっているほか、日々利用者の状態を観察し、毎月のカンファレンスで確認を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護計画へ基づいたケアの実践・結果、気づきや工夫は個別記録へ詳しく記録している。職員は情報を共有しながら実践や介護計画の評価に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族からの希望に応じて、医療法人としての利点を活かし、医療との連携を図っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員の訪問や、地域行事への参加（花見やねぶた）を行いながら支援している。また、防災訓練などを通じて消防との連携を図られるように緊急システムを備えている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、対応している。近所の理容店や美容院に行く事のできない利用者に対して、訪問によるサービスをお願いしている。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者が主体となり、本人の意向や必要性に応じて、地域包括センターと協働している。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人が母体になっているので、定期的な往診や健康相談、緊急の場合は24時間体制で適切な医療を受ける事ができる。	○	かかりつけ医以外でも、必要があれば医師との相談により紹介状を通して連携を図っている。
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が主体となり、診断や治療を行っている。また、必要や希望がある場合は主治医の紹介状を得て、治療や診断を受けられるように支援している。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護師を配置しており、いつでも健康相談を受けられるような体制を整えている。また、介護上での必要なアドバイスも相談できるようになっている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の状態、退院に向けた介護内容、看護サマリーや伝達などで情報を得て、今後の生活に役立つケアを考え、受け入れる態勢を整えている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けて、予め本人や家族ならびに主治医と話し合い、その後も状態の変化に応じて繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者が、日々をより良く暮らせるように、主治医と共にチームとしての支援に取り組むように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	本人や家族に関わる関係者間で、話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	常に言葉掛けや対応に気を配り、記録などの個人情報の取り扱いにも注意を払っている。	
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	一人ひとりが希望を話しやすい雰囲気づくりや、自己決定しやすい対応に心がけ、その人らしく暮らせるような支援に努めている。	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	一人ひとりの状態に配慮し、希望に沿えるような支援に努めている。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	おしゃれに気を配る利用者に対しては、一緒に洋服を選んだりアドバイスをしている。また、口腔ケアや清潔感のある身だしなみが出来るように支援している。理容美容については希望があればその都度、希望されない場合は定期的に勧めるようにして対応をしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性利用者が職員と一緒に準備や片付けを一緒に行っている。女性利用者同士での役割分担が出来ている。	
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコに関しては主治医の許可を必要とすが、今のところ特に希望されている利用者はいない。飲み物やおやつは糖尿病のある利用者の事も配慮している。	
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の状況は記録で把握し、失敗を減らせるようにその人に合わせた誘導を心掛けている。	
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行われ、一人ひとりの希望を聞きながら、バイタルチェック後に入浴をしている。入浴を好まない利用者に対しては、時間をおいて声を掛けをしたり、別の職員が誘うなど、楽しんで入浴ができるように工夫をしている。	
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせた昼寝や休息の取り方を尊重しながら、夜間も安心して就寝できるような雰囲気づくりに努めている。	
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族や本人からの生活歴の聴き取りや日頃の様子から、本人の出来る事（例えば洗濯物たたみ・洗い物、犬の散歩など）で役割意識を持っていたいたり、ドライブや買物、散歩に誘う事で気晴らしが出来るように支援に努めている。	


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者が金銭管理を行うことの重要性を理解している。自己管理できている利用者は数名いるが、管理できない利用者については、家族と相談の上で、金銭を預かり、場面に応じて財布を渡し自分で支払いを行えるように配慮している。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望により、車や徒歩または車椅子にて、近隣への散歩やドライブ、買物などに出かけている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と出かけたり、職員や他利用者と一緒に出掛ける機会を作って支援をしている。また、マイクロバスを借りて、ホーム全体での外出支援も行なっている。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者全員ではないが、希望される場合は好きな時（あくまでも常識的な時間を考えて）に電話をしたり、手紙のやり取りは行なっている。また、希望で代筆の支援も行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、お茶や椅子の提供をして、会話などを楽しめるスペースを作れるようにしている。また、小さな子供の面会時には、ジュースやぬいぐるみを提供する。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、全職員が正しく理解して、身体拘束をしないケアに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階ユニットですが施錠はしていません。階段部分には転倒防止の為、危険を呼びかける貼り紙を掲示し、利用者がそこを通ると鈴が鳴るよに工夫をしている。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーを考慮しながら、昼夜を通して、利用者の所在や様子を把握し安全に配慮している。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に合わせて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の為の勉強会を行ったり、ヒヤリハットや事故報告書もとに反省と検討を行い、一人一人に応じた事故防止に取り組んでいる。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを整備し、職員への周知徹底を図っている。応急手当の対応は、医師、看護師に確認をとっている。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。運営推進会議等で地域住民へ協力を呼びかけお願いをしている。また、関連施設が近い為、災害時には協力を得られる体制をとっている。非常時に備え食料や飲料水、ポータブルトイレ等を備えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについては、管理者や主治医（運営者）から、家族に説明を行い、家族と相談しながら個々に対する対応策を実行するように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定以外にも、個々の利用者の異変の発見に努め、気付いた時には職員同士が情報を確認するようにし、管理者や主治医に対応を仰ぐように努めている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報があり、いつでも確認できるようになっている。職員は個々の服薬について理解し、確実な服薬の支援と症状の観察に努めている。服薬チェック表の活用により、服薬ミス防止に努めている。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼るのではなく、排便チェック表などでリズムを把握して、水分補給やメニュー作りの工夫、その人に合った運動の支援に取り組んでいる。また、薬の服用で様子を見る場合は、主治医の指示を得ながら、本人に合ったものを探っている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	言葉掛けをしながら毎食後の口腔ケアをしている。これまでの生活の中にその習慣がなかった利用者へは、本人の意思を尊重しながら口をすすぐ事からはじめ、習慣化できるように支援している。異常が発生した場合は、家族と連絡を取り歯科医の訪問を依頼している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎飲食の記録を取り、個々の状態や習慣に応じた支援をしている。その内容として、トロミをつけたり刻み食にして食べやすくしたり、器などに気を配るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	常にうがい手洗いの習慣を身につけ、消毒液などを活用して、感染マニュアルに沿った予防に努めている。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	熱やハイターによる消毒や殺菌を毎日行い、食材は用途に合わせた保存（冷凍やチルド）をしている。また、新鮮な食材の利用と管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りに花壇や畑を作り、その近くには椅子などを置いて、誰でもが座って会話できるようにしている。また、玄関には介護犬を置き、コミュニケーションの役割をしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や日常の習慣（例えば、正月・ネブタ・七夕・クリスマスなど）に沿った飾り付けをしたり、テレビの音量を調整したり、居心地良く過ごせるように工夫をしている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファで気のあった利用者同士が過ごせるように話題やお茶の提供をしたり、希望によって一緒に歌を歌ったりゲームなどを行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談をして、今まで自宅で使用していたタンスや椅子、鏡台などを持って来ていただいたり、家族の写真や好きなカレンダーを飾り、窓際には草花やぬいぐるみを置いて、居心地の良い工夫をしている。	○	利用者によっては必要以上に着込んでしまったり、置物を壊し事故へつながったり、衣類を一晩中整理して安眠できないという方もいるので、家族へ相談の上、居室へ置く物を必要な物だけにしていく。
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は24時間換気システムが備えてあり、毎日の気温と湿度の記録をとっている。また、窓の開閉を利用して利用者の状況に合わせた換気も小まめに行なうように努めている。	○	暑い季節でも夕方になると窓を閉めたがる利用者がいるので、その事でトラブルが起きそうな場合は、エアコンなどを利用するようにして、利用者同士のストレスを軽減するようにしている。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーはもちろんのこと、廊下・トイレ・浴室などには手すりを付け、ドアの取っ手も握りやすくしている。また、危険な物は取り除くだけでなく、その都度、話し合いをして出来るだけ自立した生活が出来るようにしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ベットや家具を各自が使いやすい配置にし、ドアには目印を付けたり、日めくりや季節の装飾品を置く事で、場所や日時がわかりやすくなるように工夫している。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	廊下での往復運動や、小上がりを利用した軽い体操などいつでも行えるようになっている。また、それぞれが窓際やテレビの近くなど好きな場所で過ごす事が出来ている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

医療法人が母体となる施設である為、利用者の急変時における迅速な対応や、看護師の常勤によりいつでも健康相談が受けられるという利点があり、安心して過ごす事ができる。

また、看取りの介護を行っており、終末期の利用者を医療と福祉、両面からのサポートで支援する事ができる。家族のメンタル面に関しても医師、看護師、介護員が一体となりケアに努めている。

セラピー犬がおり、散歩や餌やりなど日々のお世話を通して利用者や職員の癒しとなり、生活の一部となっている。

日々の暮らしでは孤立防止を第一に考え、利用者一人ひとりの立場へ立ち、その人へ合った支援方法を職員みんなで検討し実践している。特に音楽療法の勉強会の実践や職員の特技を活かした習字やお花、茶道、調理、などのレクリエーションを取り入れ、笑顔を引き出せる介護員として日々取り組んでいます。